

0516

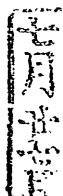
號一一  
故 築 一 號

件名	新式速射砲試験之件
受番	號領
大臣	司第一三七一予
裁決	廳名教育總監印
主務局長官	閱
參事官	
主務課長	
高級副官	
副監督	
主務課員	
主務副官	
者筆記案審	

福島忠吉より 教育總監部 年譜上  
西(西)案

形式連射砲試験儀と甲辛五五一號ヲ以テ  
支那監視官より考査大臣へ移牒於成員を以て之等  
我ど此意見ト同様ノ義既に技術審査部  
審査ノ儀金庫庫外に於ける事並に迄此及び  
西(西)案

軍省送  
乙第  
號



教育總監部

甲第五九一號

號

七月十日

新式速射砲試驗儀付別低通野  
戰砲兵監ヨリ意見上申多處此際最モ必  
要儀ト存ニ付此段及移備矣也

明治三十六年七月十五日

教育總監伯爵野津道貫

陸軍大臣寺内正毅殿

教育總監部

0518

新式（砲身後座式）速射砲試験ノ儀存意見

上申

意見

速射砲身後座式速射砲、試験ヲ施行シ最モ有利ノ制式ヲ撫定シ之ヲ採用セラレタシ

理由

西曆一千九百一年佛國カ其全采軍砲兵隊ニ新式（砲身後座式）速射砲ヲ交付セシ以來大ニ列強諸國ノ注意ヲ惹キ爾來歐米諸國ニ於テハ或ハ委員ヲ設置シ或ハ試験中隊ヲ編成シ各種ノ新式火砲ニ就キ最モ熱心ナル比

較試験シナシ既ニ其制式ヲ決定セルモノサヘアリス各國  
 兵器工場ニ於テハ各種ノ新式火砲ヲ製造シ諸種ノ  
 試験ヲ經テ十々戰用ミ適スルニ至リシトハ既ニ何人モ疑ラ  
 容レサル所ナリ

新式速射砲ト現用速射砲トノ主要ナル差異、射擊速  
 度、大小ト防楯ノ有無ニ存シ、現用速射砲ハ熟練ノ砲  
 チヲ使用スルモ一門ニ付一分間七乃至八發ヲ射撃シ得ル  
 ニ過キスト、新式速射砲ハ一門二分間ニ五發若ク、其  
 以上ヲ發射シ尚且照準甚々精確ナリ是レ發射間砲  
 架ヘ地上、固定シテ毫モ移動セス砲身ハ自動的ニ薦  
 位ニ復スルヲ以テナリ

新式速射砲及之ニ属スル彈薬車ニ裝備セル防楯ハ  
 其厚サ三乃至六粍ノ鋼鉄ニシテ榴霰弾ノ丸子破片弾ニ  
 小銃弾ニ對ニ善ク砲手ヲ掩護セルカ為メ砲手ハ沈着  
 ミテ操作スルヲ得ヘン

新式速射砲ニ應用シ照準裝置ハ精巧ナル眼鏡ヲ  
 備フルヲ以テ照準容易且正確ニシテ迅速ナリ又射距離  
 ノ変換ニ要スル射角ノ増減ハ轉把施回ニシテ其メ精密  
 ナリトス

要スルニ新式速射砲、性能現用火砲ニ優ルヲ頗ル著  
 大ニシテ我邦野戦砲兵ニ於テモ速ニ之カ試験ヲナシ最モ  
 有利ナル制式ヲ撫定シ之ヲ採用スルヲ目下ノ急務ナリト

信ス

恭 聞 納 謹 啟

砲身後座式速射砲モ其種類多シ其最モ有利ナル制  
式ヲ撫定スルニハ慎重ノ試験ト公明ナル審議ヲ經サル可  
ラサルヲ以テ多クノ時日ヲ要スハク促テ之カ着手一日モ  
早カラシトヲ要ス

右至急御詮議相成タ様致度此段意見申  
進ナリ也

明治三十六年七月七日

野戦砲兵監伊地知幸介

教育總監伯爵野津道貫殿